

令和2年度熊本県立荒尾支援学校進路便り第2号（通巻第48号）

わーく&らいふ

令和2年7月17日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★トピック「コロナ渦の進路支援」

★お待たせしました！ARA・SHI福祉就労セミナー 9月より開始

◆トピック「コロナ渦の進路支援」

コロナ渦は私たち特別支援学校の「当たり前」も大きく変えました。

たとえば、特別支援学校の重要な学習のひとつに「現場実習」があります。この「現場実習」は生徒の進路希望や実態に合わせた「施設」等で実際に2週間程度の仕事や生活の体験をする学習で、実習先（進路希望先）と生徒のお見合い的な役割があることから、進路選択には欠かすことのできないものです。

しかしこの「当たりまえ」で「重要な」学習も、県下約半数の学校が影響を受け、6・7月の実習が中止になりました。実習の受け入れ先にとっても感染防止は重要な課題のため、実習生の受け入れが停止されたからです。

■本校の対応は

本校でも6月の2・3年実習は中止とし、非常事態宣言が解除になってから実習候補先への依頼を開始しました。

こうして、進路選択に実習が必要な3年生のみ、7月に臨時の現場実習を計画しました。通常2週間の実習期間を1週間に短縮しましたが、3年生の進路選択に向けた歩みは、とりあえず一歩を踏み出すことができています。7月の実習先は以下の通りです。

生活介護	就労継続支援	就労移行支援
うすま苑 3人	A型 アントレ 1人	ワンピース 2人
ひまわりの里 2人	A型 BLOOM 1人	ルピカ 1人
わがんせ 1人	B型 にこにこわがんせ 1人	
くじらのせなか 1人		
もんくうる 1人		

■新しい「日常」への適応

コロナ渦は、以下のように私たち特別支援学校の児童生徒にも等しく「新たな日常」の習慣化を求めています。

①マスクの着用



施設に立ち入る際は、マスク着用と検温が義務化されているところが多くなっています。

ところが本校児童生徒の中には、マスク着用の際して「感覚の過敏さ」や「意味理解の困難さ」などさまざまな難しさ



がある子ども達もいます。

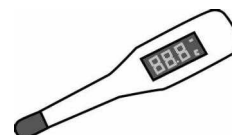
ということはコロナ渦の日常として、何よりも、「大切な自分（お子様）の身を守る」ためにも、今まで着用経験の少なかった本校児童生徒であっても、マスク着用「慣れしておく」準備が求められていると言えます。

また、マスク着用が実習受け入れの条件となれば、場合によっては進路選択のカギになる可能性もあることも踏まえておきたいものです。

②体温測定の習慣化

本校では今回の現場実習前の1週間、ご家庭に体温記録をお願いしました。この時期の平熱を明らかにするとともに、実習中も朝の検温を徹底し、実習日誌に記録していただいています。

この体温測定（血圧測定も）は、生活介護事業所でバイタルチェックの一環として毎日行われる日課です。お子様の小さいうちから慣れしておくこと、毎日の生活の中で測定のタイミングなど、ルーチン化しておくとういでしょう。



◆お待たせしました！

ARA・SHI福祉就労セミナー9月より開始

コロナ渦により実施を見合わせていました「ARA・SHI福祉就労セミナー（福祉サービス事業所説明会）」を、下記の概要で9月より開始します。詳しくはおってご案内いたしますので、是非ともこの機会を生かして進路の情報をたくさん仕入れてください。

今回から本校外の保護者の参加も可能になりますので、お知り合いの保護者の方にも情報提供をお願いします。



【令和2年度の概要】

- ①会場を「荒尾市総合文化センター」に変更します。
- ②公共施設で実施することにより、本校保護者に加えて、荒尾市内の特別支援学級の保護者の参加も可能になります。
- ③9月から毎月1回、7回シリーズで実施します。
- ④地域別の説明会をあらため、サービス毎の説明会にします。

<編集後記>

今年の進路決定に向けた道のりは動き出したばかりですが、首都圏での感染再拡大など、まだまだ先が見えない状況に変わりありません。本校では、今回紹介した7月の臨時実習のように、現時点でできる最良の取組を常に探り進めて参ります。その上で、学校と家庭が連携し、進路決定に向け歩んで参りましょう。（高等部一般 谷口）

